

1月 山行報告



■高峰(宍粟50山)

- 日 程：11月7日(土)
- 参加者：La 和田 SLa 舛賀 川上 篠原 矢根 山下(純)
Lb 尾内 SLb 中嶋 嶋澤 島谷 谷口 村上
- 行動記録：JAみかたサンパティオ 8:50 着(9:45 発)～前川登山口(9:55 着)
～電波塔(10:46 着)10:48 発～640mピーク 11:30 着(11:45 発)
～高峰頂上(昼食・12:25 着)12:50 発～大岩群(13:15 着)～草木峠
登山口(13:50 着)

◆◆紅葉満喫の高峰

川上

今日は12名で自家用車3台に分乗してJAみかたサンパティオ駐車場に集合しました。

トイレとストレッチを済ませていざ出発！県道6号線沿いを400m程歩いて前川登山口から登り始めました。整備された林道をらくらくと歩いて尾根道へ出ました。途中までは紅葉の海を見渡しながらの余裕でしたが、だんだん登り傾斜がきつくなってきて、後ろにひっくり返りそうになり両手両足を使ってよじ登る様に必死の思いでリーダーについていきました。途中、衣服調節をして小休止しながら、汗ふきながら高峰山頂(844m)の三角点をタッチできて最高、バンザイです。

昼食休憩の後下山。これがまた急斜面で滑りながら木に受け止めてもらいながら下っていきました。近づいてくる里に早く降りたいと気持ちも足もはやって、やっと車道に私達の乗る車を見つけホットしました。

ストレッチして「まほろばの湯」へ立ち寄りサッパリしてから帰路につきました。

今回は尾根道を歩くと軽く思っていたのですが、尾根道の勉強不足でした。これも尾根道、あれも尾根道なんだと知りました。落ち葉の中、どんぐりコロコロ、鹿のふんコロコロの山道でした。素晴らしいさわやかな紅葉の山でした。皆さんの心も紅葉に染まったことでしょう。

運転手さんお疲れさまでした。皆さん有難うございました。





■とんがり山(姫路)

- 日 程：11月8日(日)
- 参加者：L 平井(正) SL 渡邊(俊) 香川 木村 田中(重) 田中(由) 中村 橋本(健) 峯山 宮崎
- 行動記録：JR 太市駅 8:45 発～稲荷大明神(9:05 着)～石倉峰相の里(9:20 着)10:00 発～登山口(10:10 着)～亀石(11:00 着)～とんがり山山頂(11:10 着)11:40 発～大黒岩(12:10 着)～峰相山山頂(12:40 着)12:50 発～太陽公園(13:35 着)

◆◆あれがマッターホルン？槍・小槍か・・・雨のとんがり山

宮崎

山行の日が近づくと気になるのが天気予報。数日前から予報変わらず8日は曇り時々雨。

リーダーからは前夜に「当日朝、土砂降り時は中止する」のメールが届いた。夜中に大雨が降った。朝、空を見上げると小雨模様。しっかり雨対策をして家を出た。

JR姫新線を利用するのも初めてだし、太市駅で下車するのも初めて。天気はここも小雨。メンバー全員雨具(上下)着けて一路石倉峰相の里を目指す。太市はたけのこの里でもあり、あちこちに竹林がある。「鹿・猪・常識人間以下の入山禁止」と看板。しっかり電気柵も設置してあった。「渋柿かなあ？甘柿かなあ？」・「紅葉きれいだね～」なんて、ハイキング気分。峰相大池のそばに「峯相山登山記帳所」があり、そこで登山届を提出。ここから気合を入れて峰相山登山口(亀岩・とんがり山・尾根コース)へ向かう。最初から急登・トラロープも張られている。両側にはコシダが茂っているし、登山道は落ち葉や石が雨に濡れて、滑りやすい。尾根道に出た場所で衣服調整を兼ねて体調を整える小休止。遠くに平野部や山陽道・瀬戸内海まで見えた。尾根道を歩いていると「亀岩」が目の前に現れた。巨大な岩を三点確保でよじ登り岩の上に立つと素晴らしい展望が・・・メンバー一同歓声！360度見渡せた。目の前に聳え立つとんがり山を確認。ここから山頂までは一気に高度を稼ぐ為か直登になる。トラロープが二重・三重にも張られていた。足元に注意しながら慎重に登る。1時間強で山頂(256.7m)に到着！誰もいなかった。展望は良かった。向こうの山々にはガスが掛かり、まるで天空にいるような気分の中で少し早い昼食タイム。その頃雨は止んでいた。

次は峰相山(239.7m)へ向かう。雑木林の穏やかな尾根が続く。途中で「大黒岩」にも立ち寄る。ここに立ちはだかったのが落ち葉と苔の付いた岩の道で隆起している箇所を通らなければ行けない場所にある。慎重に下り・登らなければならない。メンバーは難なく歩けたが、私は下りは行けたのに登る時、ズルッと滑ってしまった。誰かが「歩幅を小さく、足裏全体をくっつけて！」と言ってくれたのを聞いたがすでに遅しである。ロープにつかまったので怪我はなかった。濡れた岩や根っこには要注意だ！



道には石がゴロゴロ、そこは「鶏足寺の跡」。石積みや井戸跡・五輪塔が祀られ、二箇所ある祠では開帳して手を合わせた。峰相山の山頂にたどりつくが展望は無かった。そこからは自然歩道になり一気に下る。雨が降ってきたが視界を遮るほどでなく、枝葉が傘の代わりになった。ただ滑らないようにだけ気を付けた。

何処からか声が聞こえる。眼下に東洋大姫路高校のグラウンドが見えた。太陽公園内の「白鳥城」も出迎えてくれて無事下山。針葉樹が多く紅葉の中での山歩きではなかったが、かすかに霧が掛かる幻想的な林の中を歩いて嬉しかったです。リーダー・参加の皆様ありがとうございました。和気あいあいとした良いパーティーでした。 雨の中の山行もまた楽し・・・。



■はじめてのテント泊 第3回目 蒜山三山

- 山 行 日：11月14日(土)～15日(日)
- 参 加 者：L尾越 SL佐々木 中村 渡辺(和) 和田
- 行 動 記 録：下蒜山登山口(犬狹峠)(6:50 着)7:25 発～雲居平(8:25 着)～下蒜山山頂(9:16 着)9:25 発～フングリ峠(10:20 着)～中蒜山避難小屋(11:15 着)11:28 発～中蒜山山頂(11:30 着)11:35 発～上蒜山山頂手前(12:45 着)12:50 発～八合目(槍が峰・13:18 着)～百合原牧場(14:30 着)

◆◆恵み豊かな蒜山高原で遊ぶ

中村

「衣食住を担いで歩く」「歩荷トレ」も覚悟で、申し込んだテント泊山行でしたが、蒜山三座の縦走は2日目の日帰り日程へ変更になり、双方が中止。正直、心身ともに楽に参加することができました。

米子自動車道の蒜山ICを出たら、まずは買い出し、ご当地食材巡り。夕食のメニューは、キノコ汁に雑炊とステーキ&サラダ。地産の高原野菜・きのこ・チーズ・ジャージー牛肉にワインなどなど、おいしい食材いっぱいめぐり逢うことができました。



夕食作りでは、飯盒の振動などの変化に応じた火加減がとても興味深かったです。最初のかまどの火が、飯盒全体を包むくらいの強い火力で。薪を飯盒に当ててブクブク感じていたのが消えて、ふたの隙間から水蒸気が出始めると中火くらいにして、水蒸気が出なくなるまで、徐々に火から遠ざけます。最後は飯盒のふたを開けて、目で確かめて完成。薪で炊いたご飯は、ホントに格別のおいしさでした。

テント泊は、寒いし寝袋だし、ちゃんと寝ることができるかどうか心配していたけれど、ベテランのメンバーに守られ感があったためか、熟眠でした。

翌朝まだ暗闇の中、5時に起床。朝食は、オニオンスープのチーズパン粥。おかわりもあって、体も温まりありがたかったです。手際よくテントを撤収し、いよいよ下蒜山の登山口へ。



峰々に霧が渡り、天候回復の兆しある空模様ながら、合羽を着て出発。山林では、葉を落として新芽を蓄えた木々に枯れたススキ。すでに冬支度ができており、いつ雪が舞っても大丈夫な気配が感じられました。

大山は霧に隠れたままだったけれど、なだらかな尾根々に包まれるように広がる蒜山高原が見渡せました。大山の噴火で、堆積した火山灰の黒々した大地にやわらかそうな牧草の緑、

雑木林の紅葉、それぞれがパッチワークになり、なんともかわいらしい景色でした。

中蒜山頂上付近にある避難小屋には、暖炉があり、たきぎまで準備されていました。到着した時は、誰もいなかったので腰掛けて昼食をとり始めましたが、その直後、ゾロゾロと団体が到着し次々に昼食を広げ始め、あっという間に溢れる人でいっぱいになり、先にいた私たちは居場所がなくなり余儀なく退散しました。彼らの大人数の勢いに押されてしまいましたが、小屋では、声を掛け合って場所を譲り合い、お互いに気持ちよく使いたいものと思いました。

下山後の入浴は、天然ラドンの湯。蒜山高原は、「どこまでも豊かな土地柄」と、感心してしまいました。

本当に楽しい山旅でした。メンバーの皆さんありがとうございました。



■大甲山(宍粟50山)

- 山 行 日：11月15日(日)
- 参 加 者：La 澤田(律) SLa 藤本 嶋澤 田中(由) 田羅間(勤) 土屋 舛賀 村上
Lb 垣内 SLa 砂川(延) 澤田(卓) 田中(重) 田羅間(易) 本多
三木(勉) 矢根 山下(雅) 吉村
- 行 動 記 録：中国道安富PA 5:00 発—西播磨天文台・展望台(5:45 着)7:00 発—登山口(8:50 着)9:10 発～行者堂(9:35 着)9:45 発～大甲山山頂(10:55 着)11:25 発～下山口(12:30 着)12:35 発—最上山(13:55 着)14:45 発—伊沢温泉(14:55 着)16:00 解散

◆大甲山山行に参加して

吉村

定例会の山行案内で、「雲海を見る」が目に留まり、早朝出発は苦手であったが昔の北アルプスの雲海が目に浮かび山行を申し込みました。

前日より雨でもありましたが、予定通りJR宝殿駅より参加者数名が同乗し出発。途中、安富PAで参加者18名が合流のうえ、佐用ICより雲海の見える西播磨天文台にある駐車場に午前5時45分頃到着。雨も上がりヘッドランプ装着の上、展望台へ向かう。

各自が持場で雲海、日の出のチャンスを待ち空が明るむ頃、幻想的な雲海が見られ思わずカメラに納めていました。あいにくご来光には出合わず、7時頃に下山。波賀町齊木の大甲山に向かいました。

民家を過ぎ林道を進む。9時10分頃に登山口到着。早速ストレッチ体操の後A、B班の順で登山開始。しばらく林道を進むと約40分で行者堂(工事中)に着く。これより先、急な狭い山道を行くと行者山大岩に、この付近から波賀の町が見通せた。その後ヒノキ・スギの人工林の中を進む。途中で登山道はずれ、A班は前進。B班は引き返し標柱を確認、尾根筋より山頂を目指す。尾根筋は比較的幅広の道が続き時折急傾斜もあり、落ち葉等で滑るのを注意しながら、ヒノキ林の中を進むと前方が明るく見通せる場所になり、大甲山山頂(1035、3m)に11時25分頃到着。曇り空で展望悪く残念。各自昼食、小休憩、記念撮影の跡、小雨の中往路コースを下山する。



先般の床ノ尾山縦走の折、冷え込み膝痛で困った経験があり、今回は防寒対策で無事膝痛もなく下山口に12時35分全員下山する。今回の山行で宍粟市の千メートル級の山、25座の内2座踏破できた。残山行の登山を目指す。

山行の帰路に山崎町「最上山もみじ祭り」に立ち寄る。紅葉は、色あせ落ち葉で残念。その後「伊沢の里温泉」で疲れを落とし、現地で16時頃解散し、それぞれ帰途につきました。

リーダー、係の方、はじめ皆さま楽しい一時を有難うございました。



■大峰山 大峰奥駈道を歩くシリーズ 第2回目

- 日 程：10月20日(金)～23(月・祝)
- 参加者：L上田 SL待場 大谷 河合 瀧原 三木(悦) 村上
- 行動記録：下記

21日：和佐又山ヒュッテ6:45～和佐又山山頂(7:20着)7:30発～和佐又の科尔(7:45着)7:50発～朝日窟8:40～笹ノ窟(8:50着)9:00発～奥駈道出合10:30～大普賢岳山頂(昼食・10:45着)11:30発～国見岳12:30～稚児泊(13:00着)13:05発～七曜岳(13:55着)14:05発～行者還避難小屋(16:00着・宿泊)

22日：行者還避難小屋6:50～一の峠8:20～トンネル西口分岐(9:05着)9:10発～弁天の森9:35～聖宝の宿跡(10:00着)10:10発～弥山(11:30着・昼食)12:10発～八経岳(12:40着)12:45発～弥山(13:15着)13:25発～弥山神社13:35～狼平避難小屋(14:35着・宿泊)

23日：狼平避難小屋6:35～高崎横手(8:00着)8:10発～栃尾辻(8:55着)9:00発～遭難碑10:00～天川川合11:25

◆◆大普賢岳から八経ヶ岳へ、大峰奥駈道の厳しさを知る 上田

● 20日 天川川合から行者還トンネルを通過して和佐又へ

前日の午後「土砂崩れで169号線通行止め」と和佐又山ヒュッテから電話が入る。大急ぎで連絡をとりあいコースを変更して行くことに決める。近鉄大和下市口から309号線を南下し天川川合から行者還トンネルを抜けて和佐又山ヒュッテに入り宿泊する。

● 21日 数えきれないほど鉄梯子を越えて大普賢岳へ、難行苦行の七曜岳越え

6時45分和佐又山ヒュッテを出発、朝陽といっしょに和佐又山に登る。木々はすっかり冬支度で葉を落としているので見通しは良い。和佐又の科尔からゆるやかに尾根を登り絶壁の下に出ると指弾ノ窟、少し離れて朝日窟・笹ノ窟・鷲ノ窟とつづく。笹ノ窟には不動明王を祀る立派な祠がある。岩から滴り落ちる水を一口いただいて山行の安全をお願いして進む。

鉄梯子を登って石ノ鼻の上で、ここからは細い尾根上に鉄梯子が連続する。数カ所ある絶壁にかけられたブリッジからは深い谷をはさんで大峰や台高の山々が墨絵のように見える。

笹ノ窟から1時間半、ようやく奥駈道にでて10時45分大普賢岳頂上に立つ、少し早い昼食にする。



大普賢岳からはほぼ南に大峯奥駈道を進む。国見岳は裾を巻いてしばらくはゆるやかな道が続く。稚児泊をすぎて尾根にでると一気に展望が広がり、屹立する大普賢岳・小普賢岳の絶景に歓声をあげる。いっとき疲れも取れた気持ちになったが、ここからの七曜岳越えが大変だった。

三日分の水をつめたザックは重いし、クサリ場が次々と現れる。和佐又に車をおいて日帰りコースを歩く若者はすいすいと追い越していくが我々は一步一步重い足を上げ、下りのクサリ場ではなお緊張する。行者還岳は巻き道に行く、すでに15時を過ぎていたためだが、この巻道はクサリや梯子があってやさしいものではなかった。幸いだったのは「行者零水」の水場を通り水の補給ができたこと、おかげで夕食はコーヒーが飲めるなど水を十分使うことが出来た。行者還避難小屋に16時着、6人程の相客があった。

● 22日 近畿最高峰の八経ヶ岳に登り狼平避難小屋へ

行者還避難小屋6時50分出発。今日は昨日と違ってゆるやかな笹原の中に行く。一ノ坪から登山道は西に向かって進み、聖宝ノ宿跡まではゆるやかな道が続き、行者還トンネル西口からの道と合流すると登山者が多くなる。弁天の森はこの時季でも苔が美しい。聖宝ノ宿跡にある理源大師像を見て、行者は本当にこの山道を高下駄で歩いたのか。??しばらくの急登で弥山に11時30分着、ゆっくり昼食をとる。

弥山から近畿最高峰の八経ヶ岳の往復は約1時間、途中に天然記念物オオヤマレンゲの自生地を守る柵の中を通る。来年オオヤマレンゲの咲くころに3回目と思うが雨の多い地域の7月はちょっと難しいかと思う。

弥山神社に立寄って、白骨林を見ながら今夜の宿泊地・狼平避難小屋をめざす。約1時間の下りだが途中から延々と続く木の階段を下る、階段を下りきったところに建つ避難小屋に14時40分に着き、小屋の前で夕食にする。

この避難小屋の水場はそばを流れる弥山川の上流だがきれいな水が流れていた。避難小屋には5～6人の相客があり小屋の周囲には6～7張のテントが立った。

● 23日 雨と競争で天川川合に下山する

狼平避難小屋を6時35分出発、今日は天川川合まで4時間ほどの下り。高崎横手8時、栃尾辻に9時、遭難碑10時そして川合に11時25分下山。下山と同時に雨が降りだした。

まえひら旅館で入浴し食事、みなさんお疲れさまでした。乾杯！



■大台ヶ原・大普賢岳 学習会B班終了山行

- 日 程：11月21日(土)～22日(日)
- 参加者：CL 砂川(延) L 藤本 SL 田中(由) 赤木 田中(重) 土屋 西脇 平井(み) 平石 森下 山本(清) 渡辺(和)

● 行動記録：

- 21日(土)：大台ヶ原ビジターセンター(12:10着)13:00発～日出ヶ岳(13:40着)13:50発～正木原(14:30着)14:35発～牛石ヶ原(15:00着)～大蛇岨(15:15着)15:25発～大台ヶ原ビジターセンター(16:35着)

◆◆魅せられた 大蛇窟

田中(重)

11月21日(土)B班学習会で学ぶ事1年、その集大成の終了山行だ。

6時30分善防(宝殿6時)を出発、みなと観光のマイクロバスで大台ヶ原ビジターセンターへ・・・予定のドライブコースが通行不能で迂回コースで約1時間半の遅れで到着。

直ぐに昼食をすませ出発前の記念撮影。みんな元気いっぱいの笑顔でカメラ目線。

藤本Lを先頭に13時登山口を出発、45分程で日出ヶ岳に・・・。青空に360度の大峰山系の素晴らしい大パノラマが広がる。次なる目的地、正木ヶ原へは自然保護の為の木道階段を進む。大台ヶ原特有のトウヒ、ブナ等に立ち枯れ樹木の景色を楽しみながらシャッターを切りました。ミヤコザサの牛石ヶ原を過ぎ大蛇窟分岐から様子が一変、そそり立つ岩山、東ノ滝を遠望、間もなく大蛇窟に到着。

鎖で囲まれた岩場を慎重に先端まで・・・身震いする大絶景に感動！来て良かった～大蛇窟がこれ程までとは想像すらしていなかった。

何時までも居たい気持ちだが、ショートコースでビジターセンターへ急ぐ。和佐又山ヒュッテに着いたのが、とっぷり陽が落ちた18時頃になっていた。

入浴でサッパリしたところで、和気あいあいの夕食にアルコールもすすむ！

- 22日(日)：和佐又山ヒュッテ6:00 発～和佐又の科尔(6:25 着)～笹ノ窟(7:25 着)7:30 発～日本岳の科尔(7:45 着)～大普賢岳(9:10 着)9:45 発～笹ノ窟(11:45 着)11:50 発～和佐又の科尔(12:35 着)12:40 発～和佐又山ヒュッテ(13:00 着)



ヒュッテの食堂でストレッチ、寝覚めの体を解して6時出発。

夜明け前の暗闇の中、ヘッドランプを着けて和佐又の分岐へ向かう。

次第に夜が明け東の空がオレンジ色に染まるがスッキリした天気ではないようだ。

日本岳の科尔辺りから変化にとんだ岩場あり、鎖あり、鉄梯子ありの気の抜けないスリル満点の登山を楽しむ。笹ノ窟からの展望は「日本の風景」を絵に描いたような心和む景色に目を奪われま

した。

大普賢岳の頂上で昼食後下山、チェストハーネスを着けロープワークとカラビナの实地訓練。学習会で学んだ成果を試す時だ・・・緊張で気が引き締まるが楽しかった。

昨日の大台ヶ原山・大蛇窟、厳しい大峰奥駈道から大普賢岳、是非又登りたい山です。

写真が好きで山登りを始めて入会し基礎を教えて頂いたお蔭で、終了山行にも参加でき良き仲間に出会えて幸せを感じています。

ここまで導いて頂いた会長、B班学習会の皆さんに感謝しています。

ありがとうございました。



■扇山～角尾山～光明寺

- 山 行 日：11月27日(金)
- 参 加 者：L 瀧原 SL 藤本 清水 田中(重) 田中(由) 宮崎 山本(清)
- 行 動 記 録：滝野駅西駐車場 9:05 発～扇山登山口(9:15 着)～扇山山頂(10:00 着)10:05 発～角尾山山頂(11:40 着)12:20 発～光明寺本堂(13:45 着)14:00 発～滝野駅西駐車場(14:45 着)

◆◆扇山～角尾山山行に参加して

田中(由)

JR滝野駅に9時集合した。お天気は良いものの2～3日前からの急な寒波に震えながらストレッチを済ませ出発。

里山のイメージで参加しましたが、急な登りに少し戸惑いながらも、体はすぐに温かくなった。ほどなく扇山に着き、しばしの休憩。アップダウン有り、岩場やロープ、鎖の所も有り、変化に富んだ道を進み目的地の角尾山へ・・・



山頂は360度の展望で六甲山、明石大橋、淡路島が見え、瀬戸内海がキラキラ輝いていた。

風もなく気持ちよい山頂で、素晴らしい景色を眺めながら早めの昼食となり、和気あいあいの時間を楽しんだ。(私はおにぎりを忘れましたが・・・。)

下山は扇山手前までピストンで、光明寺への分岐で左手の道を取り光明寺の裏に着いた。境内も広く紅葉も残っていて、由緒あるお寺らしく戦国時代の本陣跡や、鳩伝説など色々興味深い所でした。

少人数でしたが楽しい山行をありがとうございました。



■七種山薬師 岩稜帯トレーニング(アルプ山行)

- 日 程：11月28日(土)
- 参 加 者：L 竹内 SL 佐々木 大谷 尾越 須増 三木(悦) 和田 渡辺(和)
- 行 動 記 録：登山口 9:40～尾根 10:00～十字峰手前(10:40 着)11:50 発～七種薬師(12:25 着)13:00 発～十字峰 13:20～ゴリラ岩 14:25～登山口 4:50

◆◆アルプ七種薬師峰山行の感想文

渡辺

今回の七種薬師の山行が、私のアルプでの初めての山行になります。

事前の例会後のロープワークのトレーニングにも出ることができず、何も準備していない中での山行になりました。

私の知っているロープワークは、学習会B班で覚えた自己確保するチェストハーネスを使ったもので、今回、腰に巻くハーネスについては何も知識がありませんでした。初めての山歩き教

室に参加したのち、昨年の9月に入会し、テント泊の山行などに参加させていただくうちに、もっと色々な山へ行きたいと思い、アルプに参加させていただくことにしました。

宝殿駅に8時に集合、一般道を走り登山口の村田牧場へ向かいます。村田牧場の手前の空き地に駐車し、牛舎の間の道を歩いて、登山口へ向かいます。

ストレッチをして、ヘルメットとハーネスを最初から装着。今日のコースは、七種薬師へ向かう途中地獄鎌尾根というところを通ります。鎌尾根と名前がついたところは数多くありますが、地獄がついている鎌尾根はここだけ。期待が高まります。池から尾根筋まで直登で登って行きます。木の枝を持ちながら、滑らないようにゆっくりと登って行きます。

20分ほど登り、尾根筋に出ると、足下のシダが絡みつきます。しばらく歩くと、西側の西尾根にゴリラ岩が見えてきます。横から見ないとゴリラの顔に見えません。しばらく先に進むと、今日の核心部地獄鎌尾根です。東側は植生が少なく、切れ落ちています。しかしながら足場はしっかりとしているので、慎重に歩けば問題なく歩けます。ただし、下を見ると高度感があります。地獄鎌尾根の最後に大きな岩壁があり、上部は勾配も急になり少しガレていますが、慎重に登れば大丈夫です。

ここでトレーニングのため、ザイルを出し途中で支点を取り、クレイムハイトで自己確保しながら登ります。実際やってみると、細かいところを忘れていたりロープが気になったり、今の自分の能力がよく分かります。



また、一人ずつ登るので身体が冷えてきます。衣服調整しながら全員の通過を待ちます。その後も、十字峰まで急なところを通過しながら高度を稼ぎ、十字峰から七種薬師へ向かいます。途中通ってきた地獄鎌尾根が見えます。東側は岩肌が見えて中々迫力があります。お昼過ぎに七種薬師に到着。今日は天気も良く、

明石海峡大橋、高御位山、紀伊半島、瀬戸内海など、遠くまで見通せます。しばらく山頂からの眺めを楽しんだ後、西尾根から下山です。十字峰まで戻り西尾根からゴリラ岩を目指します。西尾根は地獄鎌尾根と比べて緩やかなので、こちらを下山コースにした方が歩きやすいと思います。

西尾根もヤブこぎ箇所がありますが、尾根筋なので道迷いするようなところはないように思います。ゴリラ岩の頭部分まで来ると、ロープが張ってあり、その先は切れ落ちています。そのため左へ巻いて下り、そこからトラバースしてゴリラの鼻先方向へ登って行きます。そこを通過してしばらくすると、尾根筋から池の方向へ下りていきます。登山道が曖昧な部分がありますが、それなりに下りていけます。下山して、ストレッチして車まで戻ります。

牛たちは、朝と違って少しのんびりしていました。

下山後、29号線沿いに日本一の看板を上げた「たい焼き屋」があるので少し遠回りして寄ってきました。薄い皮がパリッとしていて、中のあんこもしっぽまでたっぷり入っていておいしかったです。



■京都 大文字山(女性委員会)

- 山 行 日：11月3日(火・祝)
- 参 加 者：La 三木(悦) SLa 村上 乙坂 田中(美) 中村 平石 峯山 森下 山本(清)
Lb 尾越 SLb 岡本 上川 香川 木村 塩津 田中(由) 土井 平井(み) 矢根
- 行 動 記 録：蹴上駅 9:45 発～日向大神宮(9:55 着) 10:10 発～七福思案処(10:30 着) 10:35 発～大文字山山頂(11:45 着) 11:50 発～火床(12:10 着) 12:50 発～銀閣寺登山口(13:20 着) 13:25 発～銀閣寺橋(13:35 着)

◆◆晩秋の京都・大文字山

上川

女性委員会の「晩秋の京の山と名所を楽しむ」山行に参加させて頂きました。

参加者は19名で蹴上駅に集合し、まずは京の伊勢とも称される日向大神宮へと向かいました。駐車場でストレッチをしてから内宮・外宮を参拝し、奥にある天岩戸の中を各自が通り抜けた後境内をあとにして山道へ。登山道はきれいに整備されており、また起伏も少ないのでハイキングのように気軽に楽しめるコースだと感じました。

30分程歩いたら七福思案処に到着。ここは五差路の峠になっていて多くの登山者が休憩していました。途中、木々の間から京都市内の景色を見ながら約1時間で大文字山の山頂に到着。少し霞んでいましたが京都市内を一望出来る素晴らしい眺めでした。

丁度お昼時ということもあり山頂は大勢の人で賑わっていたので、集合写真を撮ってから昼食のため少し下って火床へと向かいました。

火床からの眺望を楽しみながらゆっくりと昼食を取り、ここでもまた集合写真を撮ってから銀閣寺方面へ下山。30分弱ほど歩いたらあっという間に銀閣寺に到着し、ストレッチをして14時前には解散となりました。

解散後は数名の仲間と一緒に哲学の道をゆっくり散策しながら途中で紅葉を楽しんだり、お茶を飲んだりしながら蹴上駅へと戻って、その後帰路につきました。

お天気に恵まれ、またゆったりとした山行でしたので山も晩秋の京都もたっぷり楽しめて大満足の日でした。

リーダーさん、参加者の皆さん、楽しい山行を有難うございました！





■高山(高御位山の北)

- 山 行 日：12月3日(木)
- 参 加 者：L 佐々木 SL 上田 大谷 垣内 澤田(律) 砂川(延) 竹内 藤本
三木(悦) 宮崎 村上 和田
- 行 動 記 録：長尾登山口 8：55 発～高御位山頂(9：40 着)～松の木谷池(10：55 着)
～高山登山口(腹切り地蔵・11：05 着)～山・谷コース分岐(11：40 着)
～高山山頂(12：20 着) 12：50 発～高山登山口(13：45 着)

◆◆高御位山～高山に登る。

垣内

リーダーからのメールに「藪漕ぎがあるからやぶれてもいい服装で」と、書いてあった。ちょっとスリルがあると期待した。そして前日には「雨天でも山行します」と、あった。今夜は大降りだが天気は少しずつ回復に向かうようである。朝小雨が降っているの、主人が雨で滑りやすいから気をつけるようにと繰り返した。ありがたいことである。



8時に長尾新池駐車場に集合しそのうち4台は腹切り地蔵まで行き3台の車を置いて1台にみんなを乗せて帰ってきた。帰りの為である。

長尾から高御位山頂へそこから少し下ったところを右折した。ここには高山の標識はあがってないので気をつけてないと見過ごしてしまう。ところどころの木に高山と…→がかかっているだけである。松の木谷池にそって歩くときは、笹が長く伸び道を見えなくしている。こ

こを過ぎると堰堤に出る。われもこう吾亦紅が沢山あり春にはわらび蕨がたくさん採れるようである。

下りきると県道にでて少し歩くと高山登山口の標識があり腹切り地蔵が祀られているお堂がある。私たちは谷コースを登り途中鉄の橋を渡りました。雑木林の中を登り261mのピークをへて高山に向かった。12時20分に高山山頂に着いたが見晴らしのない山頂であった。

ここでお昼を食べ記念撮影をして12時50分に下山を開始した。帰りは途中から山中コースをとり、行きとちがい尾根を下りた。尾根は風が強かった、天気予報通りである。すべりやすい花崗岩を慎重に歩きました。1時間程で腹切り地蔵まで下りてきた。整理体操の後、留め置いた3台の車で新池まで帰りました。この判断がともうれしくありがたかったです。高御位山を後ろから眺めることが出来とてもいい山行になりました。

ちょっとした冒険心、計画のリーダーに感謝です。12名の皆さま有難うございました。



びんくしやま とまみやま
■鬢櫛山～苦編山縦走(女性委員会)

- 山 行 日：12月5日(土)
- 参 加 者：L澤田 SL 苦瓜 SL 村上 香川 木村 田中(美) 田中(由)
中村 藤原 開 矢根 山本(清)
- 行 動 記 録：J R 播磨高岡駅 9:30 発～登山口(9:40 着)～鬢櫛山186m
(10:15 着)10:20 発～初取山200.3m(10:35 着)10:45 発～
苦編山(11:50 着)12:20 発～ピーク86m(12:55 着)～下山口
(13:10 着)～J R 英賀保駅(13:25 着)

◆◆風土記に名残る鬢櫛山

中村

今回「地形図で現在地を確認しながら歩く」ということで、コンパスの任務の3名が、交替で先導してくれた。約5kmの行程は、鞍部が2か所ある、9つのピークがつながった尾根を歩くコースだ。地図上で等高線が広がったり縮まったりを、頭の中で3D化し、周囲の山容とてらし合わせる作業は、足も疲れるが、頭も疲れた。

苦編山を少し過ぎた吊り尾根のような岩場は、下まで見下ろせないくらいの角度で、海からの上昇気流が高さを感じさせる絶景ポイント。夢前川の流れが、瀬戸内海に注ぐ水面がまぶしく、立ち並ぶ工場の煙突から噴出する水蒸気？は活気を運び、J R を行き交うコンテナを繋げた貨物列車や客車は、まるでプラレールのように小さく見えた。

歩き始め、リーダーの澤田さんから、播磨国風土記に記述されている鬢櫛山にまつわる神話を聞いた。古代この辺りは、川が繰り返して氾濫をおこし、「海に似た状態」で、人が暮らせるのは、鬢櫛山を含む14の丘ぐらいしかなかったらしい。そんな特別な場所が、こんな賑やかな山に変貌しようとは、古代の人々は誰も思っていなかったろう。地下トンネルが2本、新幹線が駆け抜け、車が往来する。地上では数基の鉄塔が並び、高圧電線がたわみ、且つ、2棟の反射板が立つ。この先、遠い将来にむけまだ変貌を続けるのだろうか？今日感じた海風と紅葉した木々は、このままであってほしいと思った。



「播磨国風土記」より抜粋

大汝命(おおなむちのみこと)は船を因達の神山(八丈岩山)につけるとその子、火明命(ほあかりのみこと)に山に湧く清水を汲みにやり、まだ帰ってこない間に船出してしまう。我が子のふるまいが凶暴なのにすっかり手を焼いていたので、この機会に子を捨てたのである。捨てられたと気づいた火明命は怒って嵐を起し、去っていく父の船を巻き込んでついには難破させてしまった。そのとき、船の積み荷が落ちて十四の丘になった。このとき、船に積んでいた匣(くしげ、櫛箱)の落ちたところが匣丘(くしげおか、鬢櫛山)である。